

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【公表番号】特表2008-517906(P2008-517906A)

【公表日】平成20年5月29日(2008.5.29)

【年通号数】公開・登録公報2008-021

【出願番号】特願2007-537850(P2007-537850)

【国際特許分類】

C 07 K 1/22 (2006.01)

C 12 P 21/08 (2006.01)

【F I】

C 07 K 1/22

C 12 P 21/08

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月19日(2008.9.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

液体試料中の1種以上の抗体を1種以上の他の化合物から分離する方法であって、当該方法が、液体試料を含む移動相をマルチモーダル分離マトリックスと接触させ、抗体を移動相中に遊離させた状態で、1種以上の目標化合物を吸着することを含んでおり、上記マルチモーダル分離マトリックスが、目標化合物の負に荷電した部位と相互作用できる第1の基及び目標化合物と電荷-電荷相互作用以外の1種以上の相互作用ができる第2の基を含む、分離方法。

【請求項2】

前記液体試料が粗供給液を含む、請求項1記載の方法。

【請求項3】

前記目標化合物が宿主細胞タンパク質であり、実質的に全てのタンパク質がマルチモーダル分離マトリックスに吸着される、請求項2記載の方法。

【請求項4】

前記液体試料が、分離マトリックスからの溶出液を含む、請求項1記載の方法。

【請求項5】

溶出液が得られる分離マトリックスが、タンパク質リガンド、好ましくはプロテインA又はGリガンドを含む、請求項4記載の方法。

【請求項6】

第1の基が第4級アミンである、請求項1乃至請求項5のいずれか1項記載の方法。

【請求項7】

第2の基が水素結合基である、請求項1乃至請求項6のいずれか1項記載の方法。

【請求項8】

第2の基が、芳香族又はヘテロ芳香族の環構造を含む基のような疎水性基である、請求項7記載の方法。

【請求項9】

前記分離マトリックスが粒状であり、第1の基を含むリガンドが固定された第1粒子と第2の基を含むリガンドが固定された第2粒子との混合物を含む、請求項1乃至請求項8の

いずれか 1 項記載の方法。

【請求項 10】

分離マトリックスが、第 1 の基を含む第 1 リガンドと第 2 の基を含む第 2 リガンドとの混合物が固定されたフィルターである、請求項 1 乃至請求項 9 のいずれか 1 項記載の方法。